

我が国の対中南米外交政策

1. 経済関係の強化 ~巨大市場としての中南米~
~資源・食料供給源としての中南米~
2. 国際場裏での連携 ~高まる新興国の発言力~
3. 安定的発展に対する支援 ~貧困・格差が不安定要因~
4. 日本的価値の展開 ~親日層の更なる拡大~



1. ①経済関係の強化 ～巨大市場としての中南米～

★中南米は新興経済地域。経済規模も着実に拡大

➤GDPはASEANの約2.5倍、一人あたりGDPは中国の2倍弱

➤04年以降、約4～6%成長(世界経済危機直後の09年を除く)

➤過去の経済危機の教訓を踏まえた健全な財政政策

債務危機、高インフレは過去のものに
世界経済危機の影響は比較的軽微

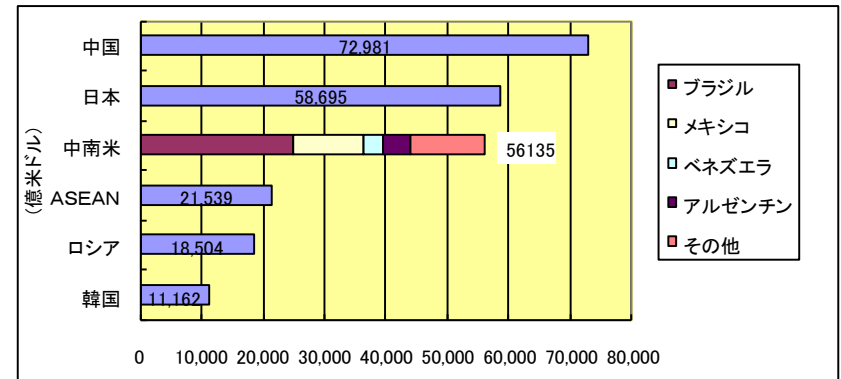
ブラジル、メキシコ等の新興国を
中心とした有望な成長市場

(1) 経済連携協定(EPA)、投資協定等の経済的枠組みの強化

- ✓ EPA(メキシコ、チリ、ペルー、コロンビア(交渉開始))
- ✓ 投資協定(ペルー、コロンビア(署名済み))
- ✓ 社会保障協定(ブラジル)
- ✓ 租税条約(ブラジル、メキシコ、コロンビア(当局間協議中))
- ✓ 官民合同の協議枠組み(ブラジル、ベネズエラ等)

◆GDP(11年、名目値)

出典: IMF World Economic Outlook April, 2012



(2) 大型インフラ案件の獲得支援

- ✓ 鉄道(ブラジル、アルゼンチン、チリ、ベネズエラ)

(3) 我が国製造業の中南米への進出の側面支援

- ✓ 裾野産業育成の支援
- ✓ ビジネス環境整備を促進
(メキシコでは近年毎年30-40社ずつ進出日系企業が増加)

(4) 太平洋同盟(チリ、コロンビア、メキシコ、ペルー)との関係強化

2012年9月、外相会談実施。

自由貿易主義志向の同同盟と各種レベルの対話を通し関係を強化していく。

1. ②経済関係の強化 ~資源・食料供給源としての中南米~

★中南米は資源・食料外交の最前線

- 銅, 鉄鉱石等のみならず, リチウムなど「新しい」資源も豊富
- 大豆, とうもろこし, 牛肉, 鶏肉など主要農産物を生産
- 経済における国家の役割強く, 資源の国家管理的動きも

官民連携を通じた経済関係の強化

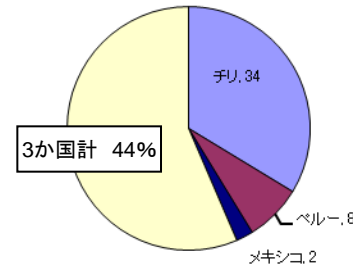
(4)資源・食料の安定確保のための連携強化

資源 : 安定した調達契約や採掘権確保のための協力関係強化

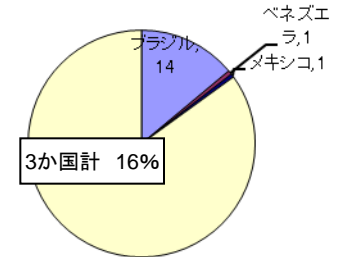
- ◆石油・天然ガス(ベネズエラ, ブラジル)
- ◆リチウム(ボリビア, チリ, アルゼンチン)
- ◆銅(チリ, ペルー)

食料 : 公的支援ツールの総合的活用による海外農業投資促進

○銅生産量シェア(%)

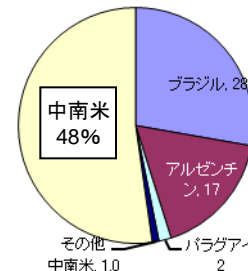


○鉄鋼石生産量シェア(%)



日本の輸入に占めるシェア: チリ31%, ペルー12% ブラジル26%, ベネズエラ0.3%

○大豆生産量シェア(%)



【レアメタル】日本の輸入シェア
 モリブデン: チリ(58%), メキシコ(7%)
 リチウム: チリ(58%), アルゼンチン(5%)

リチウム潜在埋蔵量
 ボリビア, チリ, アルゼンチンで
 世界の75%超

日本の輸入に占めるシェア: ブラジル17%

出典: USGS Mineral Commodity Summaries 2012 等

2. 国際場裏での連携 ～高まる新興国の発言力～

33か国，伝統的な友好関係

国連，国際機関等の投票行動や意思決定に大きな影響力

2011年にCELAC(中南米カリブ諸国共同体)創設し，将来的な地域統合を模索

新興国の台頭

ブラジル，メキシコ，アルゼンチン

BRICS, IBSA

G20

経済プレゼンス上昇

国際社会での影響力増大

民主主義，市場経済の基盤共有

ほぼすべての国で民主化

多くの国がFTA等を通じて市場開放政策を推進

中南米の特徴

今後の主要協力分野

経済

WTO, G20等で中南米の新興国との協調が重要(メキシコは2012年のG20議長国)
太平洋同盟との関係強化。保護主義問題への対応。

気候変動

メキシコは2010年のCOP16ホスト国
中南米にはカンクン合意の採択に反対した国も存在(ボリビア)。カリブ島嶼国も交渉上の影響力大。

核軍縮・不拡散

中南米は世界で最初に非核地帯を設定(1968年, トラテロルコ条約)
原子力の平和利用に専念(日豪主導の「核軍縮・不拡散に関する10か国グループ(NPDI)」にメキシコ, チリが参加)

安保理改革

ブラジルとはG4決議案を推進。多くの中米・カリブ諸国は日本の常任理事国入りを支持。
(アルゼンチン, コロンビア, メキシコは, ブラジルへの対抗意識等からG4決議案に反対)

政策ツール

- 主要国との首脳・外相会合や定期的な政策協議を通じ戦略的パートナーシップを構築
(2012年, チリ, ペルー, パラグアイと首脳会談。太平洋同盟4か国, コロンビア, チリ, ペルー, グアテマラと外相会談を実施(注: 10月まで))
- 地域共同体(中米, カリブ等)との政策調整の場を活用し効果的に働きかけ
(2010年9月に第2回日・カリコム外相会議を開催/2010年1月に日・中米外相会合(FEALACのマージン)を開催)

3. 安定的発展に対する支援 ~貧困・格差が不安定要因~

★経済発展の一方で大きな貧富の格差

90年代より
民主主義が定着

政治参加の拡大

- ・伝統的な格差社会
- ・自由開放経済政策の限界
(経済成長を遂げつつも、貧富の差が拡大)

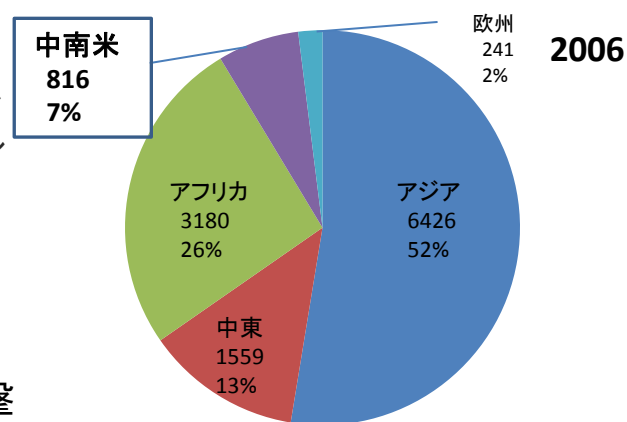
◆一人当たりGNI(11年)

日本	45,180ドル
中南米	8,544ドル
中国	4,390ドル
中東・北アフリカ	3,869ドル
サブサハラ・アフリカ	1,254ドル

出典:世界銀行

◆我が国ODAの地域別実績

(供与総額) (単位:百万ドル)



★貧困層を支持基盤とする急進的な政権がいくつかの国で誕生(ベネズエラ, ボリビア, エクアドル等)

- ・国際経済危機の影響は比較的軽微。他方、貧困層(特に中小国)は打撃
- ・貧困削減, 格差是正, インフラ整備, 人材育成, 防災, 治安改善等が共通の課題

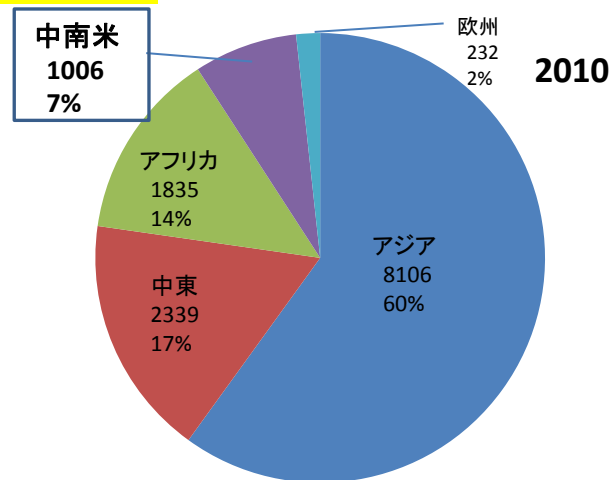
我が国の
取組

経済社会開発や民主制度定着のための支援(ODA等)

- ・生活水準向上: 教育(算数教育), 保健・医療(シャーガス病対策), 環境, 防災等
- ・産業インフラ整備: 電力, 交通, 通信, 農村・地方開発等
- ・キャパシティ・ビルディング: 人材育成(各種研修, 専門家派遣等)
- ・対ハイチ支援: 総額約1億ドルの援助, 自衛隊を派遣

中進国と協力しての第三国支援(三角協力)を推進

- ・メキシコ, ブラジル, アルゼンチン, チリとの途上国支援プログラム
- ・中進国のドナー化を支援
- ・ポストMDGsの議論でも協力

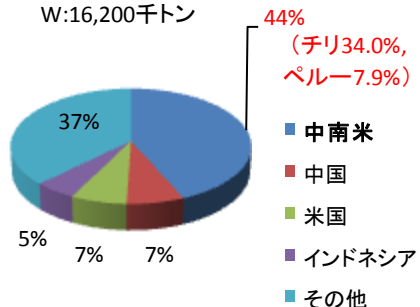


参考資料(鉱物資源)

出典: USGS(米国地質調査所)
 'Mineral Commodity Summaries 2011'

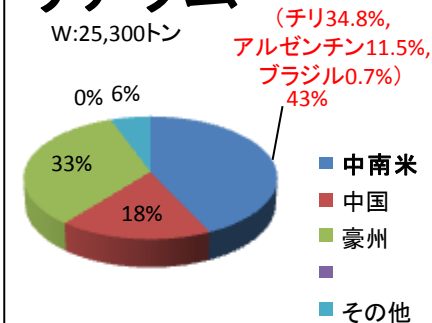
銅鉱石

W:16,200千トン



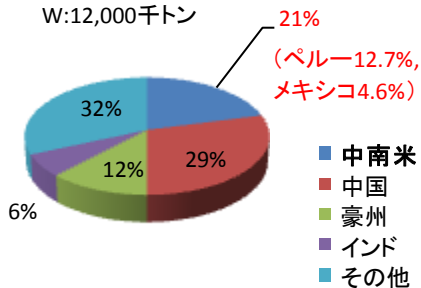
リチウム

W:25,300トン



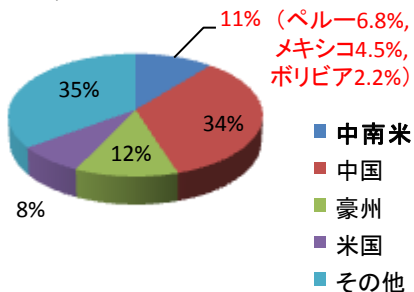
亜鉛鉱石

W:12,000千トン



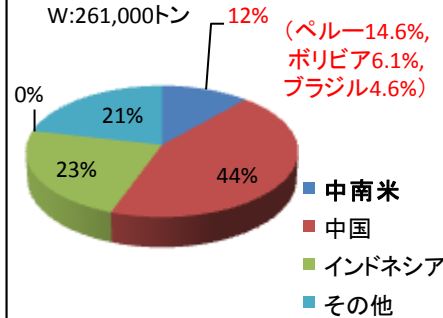
鉛鉱石

W:4,100千トン



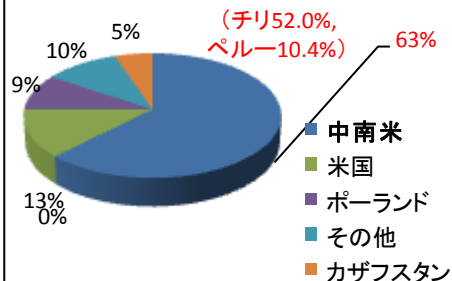
スズ

W:261,000トン



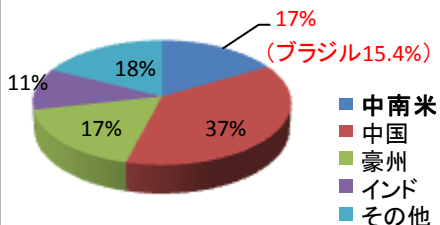
レニウム

W:48,000キログラム



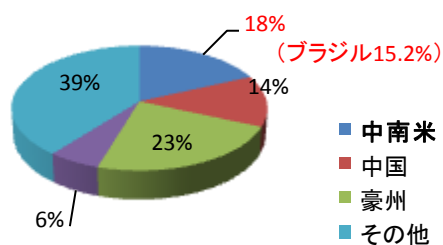
鉄鉱石

W:2,400百万トン



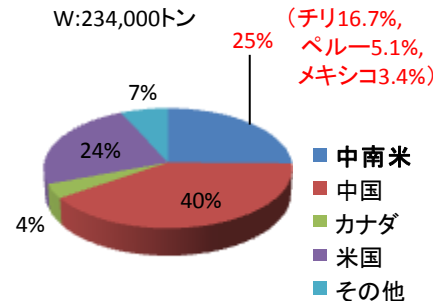
ボーキサイト

W:211,000千トン



モリブデン

W:234,000トン



銀

W:22,200トン

